

JICA ルサカ郡1次レベル病院運営管理能力強化プロジェクト



写真： 必須医薬品・医療資材ワークショップに参加した5つの総合病院、郡保健局、州保健局、Kaizen Institute Zambia (KiZ)、United Nations Development Programme (UNDP)、Zambia Medicines and Medical Supplies Agency (ZAMMSA)の代表者

JICAプロジェクトは5つの病院を対象に、必須医薬品と医療用品の在庫管理のためのワークショップを実施

チレンジェ病院、プロジェクトで寄贈された新しい医療機器の研修に意欲的に取り組む

フォト・フォーカス

チパタ総合病院の理学療法室に新しい機器が贈られる



JICAプロジェクトは5つの病院を対象に、必須医薬品と医療用品の在庫管理のためのワークショップを実施

最近、国内の医療施設において、必須医薬品が入手できないという議論が注目を浴びています。サブサハラアフリカでは、必須医薬品の在庫切れが医療施設における最大の問題の一つとなっています。必須医薬品の在庫切れに関する調査によれば、必須医薬品の不足は罹患率、死亡率、疾患の疫学に負の影響を及ぼし、さらに在庫不足の原因としては、物品調達と資金調達プロセス、供給能力、コミュニケーション能力などが挙げられています。



eZICSのメリットについてワークショップで話すZAMMSA-EUプロジェクト上級技術顧問のRino Meyers氏



ワークショップでのチレンジェ総合病院のチーム



JICAプロジェクト チーフアドバイザーの法月医師とUNDP 健康・エネルギー・気候変動プロジェクトアドバイザーのサレバン医師



ワークショップでのチパタ総合病院のチーム

ザンビア政府は保健省を通じて必須医薬品不足問題の解決に精力的に取り組んでいます。「JICAルサカ郡一次レベル病院運営管理能力強化プロジェクト」は、主要なステークホルダーとの関わりを通じて、こうした取り組みを補完しています。

主なステークホルダーは、5つの病院を受診する患者さん、5つの総合病院のスタッフ、国連開発計画(UNDP)、ザンビア医薬品医療品庁(ZAMMSA)、郡・州保健局を通じた保健省などです。このプロジェクトでは、必須医薬品と在庫管理について現場の状況を把握するため、対象となる総合病院において調査を最近行いました。

その結果、必須医薬品の供給不足、在庫管理、スペース管理、施設とZAMMSAとの連携にギャップがあることがわかりました。また、在庫管理は手作業で行われているため、顧客1人あたりの対応時間や、非効率な記録管理、より多くのマンパワーが必要とされるなど、システム上の課題も見つかりました。

このような背景から、これらの施設で現在発生している問題に対して、どのような解決策が考えられるか、関係者を巻き込んだワークショップが開催されました。ワークショップはルサカのSarovarホテルで開催され、Kaizen Institute of Zambia(KiZ)、UNDP、ZAMMSA、LPHO、LDHO、JICA Zambia事務所、および対象5病院が参加しました。

病院では、手動システムで経験している困難や必須医薬品の不足が浮き彫

りにされました。すべてのワークショップ参加者は、在庫管理のためのデジタル化されたシステムの必要性に同意していました。EUプロジェクトに所属するZAMMSAのマイヤーズ上級技術顧問は、「Enhanced Zambia Inventory Control System (eZICS)」という末端のenduserまでトラッキングできる在庫管理システムについて、参加者に説明しました。

eZICSは、カフェとチョングエで導入され、非常に効率的なシステムであることが証明されており、在庫をリアルタイムで表示します。さらに、新バージョンでは安価なアンドロイド端末で使用でき、ユーザーのトレーニングも簡単で、医薬品の調剤を効率化し、患者へのケアの質を向上させると説明されました。また、UNDPのサレバン医師は、eZICSはクラウドベースなので、物理的なサーバーを必要としないと述べました。つまり、世界中どこからでもアクセスできるのです。

これに対し、州保健局主任薬剤師のムケセラ氏は、施設のデジタル化ソリューションの必要性を強調し、eZICSの導入が既存の課題の解決につながることを期待しました。州保健局クリニカルケア部長のムシカ氏は、人材不足の課題解決に役立つと付け加えました。また、全施設での5S活動の実施についても議論され、各施設が5S活動に取り組んでいるカニヤマ病院を見習うことを推奨しました。eZICSが現在のシステムに取って代わるかどうかという質問に対しては、その可能性が高いと答え、ユーザーがシステムを切り替える必要がなく、効率化が図れるようになると述べました。

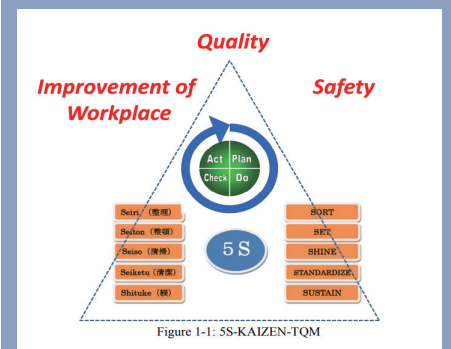


Figure 1-1: 5S-KAIZEN-TQM

2022年5月からKiZがプロジェクトを通じて全5病院で実施する5s活動エレメント

チレンジェ病院、プロジェクトで寄贈された新しい医療機器の研修に意欲的に取り組む

医療機器を正しく使用することは、質の高い医療サービスを提供するために非常に重要であり、病院設備の寿命を延ばすだけでなく、スタッフと患者の安全も確保します。このプロジェクトでは最近、対象となる5つの病院向けに医療機器を供与しましたが、このプロセスの一環として、これらの医療機材をエンドユーザーが正しく使用し、適切にメンテナンスする方法について十分なトレーニングを受けることが重要です。

この一環として、チレンジェ総合病院の医療関係者を対象とした現地でのトレーニングを実施し、使用者へのオリエンテーションを行いました。機器のトレーニングを担当したのは、医療機材の専門家であるコーネリアス ムワペ氏です。ムワペ氏は、医療機器の誤った使用は医療施設と患者の双方に大きな負担をかけることになるため、医療機器を適切に使用し、ケアすることの必要性を施設の医療スタッフに強調しました。マツタ院長は、このプロジェクトが医療施設とルサカの人々のケアの質を向上させるために尽力していることに感謝の意を表明しました。彼は、この設備が有効に活用されるよう、また、施設でのメンテナンスが行き届くよう努力すると述べました。



Medical Equipment Engineer Mr.Cornelius Mwape orienting Doctors at Chilenje General Hospital on how to use an ECG machine



編集・デザイン: Mutuna Musonda

編集長: 法月正太郎

連絡先

法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA

E-mail: cassiopeia.project.zm@gmail.com

Website: <https://www.jica.go.jp/project/english/zambia/023/index.html>

チバタ総合病院の理学療法室に新しい機器が贈られる